

| | | |
|---|--|--|
| <p><ひとことアピール></p> <p>支援がないと学校を続けられない 30 名のプロフィールが今年も届きました。文字を読めなかったために先祖伝来の土地を失った先住民ピラーンやチボリの子どもたちです。</p> <p>月額 500 円で初等教育の機会を支えて下さる会員を募集しています。</p> |  <p>2004 年 7 月 24 日発行</p> | <p>NPO 法人ピラーンの医療と自立を支える会 (英文名略称・HANDS)</p> <p>227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11</p> <p>TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933</p> <p>E-mail: hands-ty@r07.itscom.net</p> <p>http://www.jca.apc.org/~hands/</p> <p>郵便振替口座 00210-5-72693</p> <p>(加入者名) ピラーンの医療と自立を支える会</p> |
|---|--|--|

コミュニティーのためか、家族を助けるのが先か

— サミヤ（助産師）とナイアリ（薬剤師助手）の選択—



この 3 月、2 年間の助産師コースを終了したサミヤ（写真）。卒業後は当然 PIHS（パササンバオ総合ヘルスサービス・責任者はナブサ・サラさん）が推進するモロココミュニティ地域医療プログラム（P5 に関連記事）のスタッフとして働くものと思っておりましたが、彼女の近況を伝えるメールで、一時は海外就労さえ考えていたことを知りました。

父親を早くなくし、妹たちの学費のために苦勞している母親を助けたいと、ナブサさんには内緒で中東にメイドを送る斡旋業者に会っていました。

G. サントスで海外就労女性の問題にも取り組んでいるナブサさんは、暴力を受けたケースなど実例をサミヤに話して、とりあえず海外はあきらめさせたそうですが、PIHS の給与では家族を助けられない、別の仕事を探したいというサミヤの気持ちに変わりはないようです。

サミヤ本人からも、HANDS に感謝している、しかし、今はまず家族のための仕事を優先することを許して欲しいという伝言がナブサさん経由で届きました。

HANDS 奨学生の条件に、専門を生かしてコミュニティーのために働くというのがありますが、自分と家族だけでも経済的に自立できれば支援した意味はあります。ナブサさんには、残念ではあるがサミヤの選択を尊重する旨返信しました。

一方、私たちの仲介で PIHS スタッフに応募したナイアリ（写真は P 4）も、6 月末の PIHS 新人研修に参加したものの、提示された給与では家族を助けられないと別の仕事を探しているようです。ピラーン語の話せるスタッフが欲しいナブサさん、PIHS が取り入れている鍼灸マッサージなどを学ぶことができ、将来は CMB ヘルス事業でも生かせるナイアリ。どちらにもメリットがあると考えましたが実りませんでした。村にとって必要な医療専門家を育成しながら、CMB、PIHS とともに資金難で彼らをつなぎとめられないでいます。

<医療支援に感謝—2003 年度 CMB の報告から>

支援した患者総数：延べ 433 人（入院を含む CMB クリニック対応患者数で、村の常備薬利用者は含まない）。巡回診療：10 回（受診患者数合計 1,725 人）。医療スタッフの給与支援：責任者ジョジョ、助産師ビーナ、他ヘルスワーカー 7 名、計 9 名（年間経費の 28%を充当）

* * * * *

サムラング（世帯数 52）のチャリタ（デイケアセンター教師兼ヘルスワーカー）に聞いたところ、村で昨年 1 年間に死亡したのは、はしかのこどもと産後の母親の二人。いずれも村の住民でなく、寄留中に発病したので発見が遅れたようです。チャリタはその死亡した母親が残した乳児（写真 P3）を育てています。